

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができるが、やや覇気ない面がある。校内の生徒指導体制に関しては、分掌・年次の連携の下で、基本的な生活習慣の自立的確立を目指して、あいさつ運動や身だしなみ指導等が全校で組織的に行われ、成果をあげている。学習面においても、週末課題や自習倶楽部の活用により、生徒の学力は向上している。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるとともに、卒業後の進路実現にもつながっている。今後とも、卒業生、保護者、地域の人々、異校種の学校との連携を深め、進路意識が実力に、特別活動が自主性に、マナー指導等が規範意識につながる指導を更に進めていきたいと考える。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>(1) ホームルーム、学校行事、部活動などを通して人間関係力を構築させ、挨拶や掃除など当たり前でできる生徒の育成をめざす。 (2) 自己理解に基づき早期に高い進路目標を設定させ、自学自習の習慣化による学力アップを図り、生徒一人ひとりの夢の実現を達成させる。 (3) 卒業生、保護者、地域の人々、異校種の学校と連携した教育活動を展開する。 (4) 本校の教育活動や生徒の様子を地域・保護者へ積極的に発信し、本校の魅力アピールする。 (5) 教職員が日々健康の増進をめざすとともに、自ら絶えず自己研鑽を積み重ねることによって、授業力、さらには人間性を高める。</p> <p>チャレンジ目標…「早寝・早起き・朝ごはん ～1日をスッキリすごそう～」 ・余裕をもって登校しよう！ ・授業に集中して取り組もう！</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○図書館利用の活性化	・図書館施設設備や蔵書の充実を図り、「学習・情報センター」としての役割を果たす。 ・「図書だより」や「読書ノート指導」などを通して、生徒の読書活動を支援するとともに、図書館利用の増大を図る。	4: 図書館の年間のべ利用者数が2,000人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 3: 図書館の年間のべ利用者数が1,500人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 2: 図書館の年間のべ利用者数が1,000人程度で、「図書だより」は毎月発行できた。 1: 図書館の年間のべ利用者数が1,000人を大きく下回り、「図書だより」を毎月発行することができなかった。	4	本の貸し出し利用だけでなく、授業での活用や生徒の調べ学習、自主勉強、雑誌閲覧等も含めると、図書館のべ利用者数は2,000人を大幅に超えた。また、季節や行事の話題、新刊本の紹介、読書に関するアンケート調査の結果、図書館の利用状況等を掲載した「図書だより」を毎月発行できた。さらに、今年度は長南地区で長年夏休みに開催されている厚狭高校での読書会への生徒参加が実現できた。9月には全校一斉放送の形でブックトークによる読書指導を行った。読書感想文コンクールでの複数入賞もあり、年間10冊以上の作品について記載しなければ応募できない読書ノートコンクールにも応募することができた。今後とも図書館利用の活性化を図るために、様々な取組をしていきたい。	・図書館利用の活性化、読書への取組については、その成果が出ており、評価できる。今後とも作文などのアウトプットの部分も含め、継続的な取組をお願いしたい。 ・卒業後に社会人となる生徒もおり、思った中でまともで、相手に分かりやすく伝える力を養わせてほしい。 ・PTA活動の情報や、学校のホームページへの掲載などを通して、もっと積極的に発信する必要がある。	A
	○保護者との連携活動の強化	・保護者のPTA活動や学校行事に対する理解を深め、積極的な参加を促す。また、これらの活動を通して、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるように、保護者と学校との連携をさらに深める。	4: PTA総会・年次集会等の出席率が25%以上であり、各活動に対する理解が十分深まり、保護者と学校との連携も大変充実した。 3: PTA総会・年次集会等の出席率が20%以上であり、各活動に対する理解がかなり深まり、保護者と学校との連携も充実した。 2: PTA総会・年次集会等の出席率が15%以上であり、各活動に対する理解はあまり深まらず、保護者と学校との連携も不十分であった。 1: PTA総会・年次集会等の出席率が15%未満であり、各活動が不調であり、保護者と学校との連携は不十分であった。	3	PTA総会は、ここ数年休日のほうが参加率が上がるのではという考えのもとで、5月の土曜日に開催して。今年度の参加率は20%(昨年度18.3%、一昨年度19.4%)とわずかではあるが上昇した。また、総会後に引き続き行われる年次集会への出席は25%(昨年度26%、一昨年度28.2%)とわずかながら減少した。これからはPTA役員等の意見も取り入れ、出席率が上がるよう取り組んでいきたい。 年間を通して、学校行事やPTA関連の各種行事・会議などを実施しているが、講演会(演奏会)等には、毎回半数ではあるが保護者の参加がある。明日葉祭へのバザー参加については、PTA役員熱心な働きかけによって、多数の評議員の積極的な参加もあり盛況だった。収益は生徒会に寄付している。また、2年目になるPTA学校見学も教職員合わせて20名の参加でとても充実したのとなった。今後はこれらの成果を足がかりに、様々な場面を通して保護者との連携を深める工夫をしていきたい。		
教務	○課題学習を中心とした学習習慣の定着	・国語、数学、英語の3教科を中心に、年間を通じて定期的に課題を与え提出させることを計画し、また、課題の取組を積極的に評価に組み込むことにより、家庭学習の定着を図り学力の充実を図る。	4: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が90%以上であった。 3: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が75%から90%であった。 2: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が50%から75%であった。 1: 年間を通じて課題に取り組んだ生徒の割合が50%に満たなかった。	4	今年度は週末課題として、1・2年次生は従来通り国語・数学・英語を、3年次生は1学期の間は新聞の社説などを読んでまとめる、感想や意見を述べるなどする小論文の課題を与えた。3年次生に関しては、読む力やまとめる力だけでなく自己表現力も少なからず身に付いた気がする。ただ、1・2年次生に関しては朝登校してから友人のものを写すだけの者がいたのは毎年のことであるが残念である。しかし、課題の中で「なぜこうなるのですか?」などの質問を記入している者もいて、積極的にになっている生徒も増えてきている。一方で、他教科でも定期的に課題を提出させているが、国・数・英の週末課題と同様に、基礎学力が本当に身に付いたかどうかについては検証の余地がある。課題調査や定期調査にこの課題を組み入れた時の出来が悪い傾向にあるからである。来年度に向けては、より効果が上がれば、かつ教員の負担軽減となる学習課題を考え、着実に基礎学力を向上させたい。	・学習習慣の定着は大変難しい課題であり、地道で継続的な取組を続けてほしい。家庭との連携をもっとできる方策について考えてほしい。 ・学習指導の改善と充実についても、日頃の業務改善が緊急の課題だと思う。教師が本来の仕事ができるようにすることが必要である。	
	○学習指導の改善と充実	・積極的に授業を参観(異校種を含む)または公開し、研究協議等をするることにより、生徒理解や授業方法・技術の交流・共有を進め、授業改善を図る。	4: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が90%以上であった。 3: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が75%から90%であった。 2: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が50%から75%であった。 1: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が50%に満たなかった。	1	本年度当初は、県西部の新任教員研修の引き受け校となり全校体制で取り組めたが、その後は多忙な業務に追われ、授業参観等の余裕がなかった。半数以上の教員が3回に達して改善、改善策を考える必要がある。各個人に学習指導の改善と充実を任せているために、このような結果になったのではないと思われる。学校として、そして学習指導の中心となる教務課として、教科あるいは個人にノルマを設定し、それを念頭に1年間の計画を組み、教科会議を月1回の定例にするなどの思い切ったやり方をしないと、生徒理解や授業方法・技術の交流・共有ができないと思われる。単位制ということもあり、授業変更が難しい中、他校などに授業参観に行く時間が取りにくい現状なので、校内での授業改善の取組を推進しないと、生徒が多様化している中での対応は困難になりつつある。しかし、本校を魅力ある学校にするためには、学習指導を充実させることが大切であるので、来年度は積極的な活動ができるように改善しなければならぬ。	・調査、アンケートなどの事務作業が多い中だが、努力の継続をお願いしたい。 ・質の高い授業の提供のためには、外部からの視点が必要である。お互いの授業力向上のために、必ず参観の時間を取っていただきたいと思う。 ・短期大学等の進学者についても、「読む・書く・計算する」等の基礎学力の低下を本当に実感している。高校3年間を通して、基礎学力を付けていただけることを期待したい。	B

生徒指導	○基本的生活習慣の自立的確立	・身だしなみ指導と朝の立ち番指導を通して生徒の自覚的な生活習慣の確立を図る。	4:身だしなみ指導と立ち番指導がそれぞれ毎月、毎日実施され、全教職員の協力による指導が図られた。 3:身だしなみ指導と立ち番指導がそれぞれ学期1回、週1回程度実施され、全教職員の協力による指導もほぼ図られた。 2:身だしなみ指導と立ち番指導がそれぞれ年1回、月1回程度しか実施されず、全教職員の協力体制が不十分であった。 1:身だしなみ指導も立ち番指導も全く不十分であった。	4 基本的な生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎日の朝の立ち番指導、昼休みの校内巡視、定期的な実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。今後の検討課題としては、朝の立ち番指導の中で積極的に実施してきた「あいさつ運動」の成果をさらに上げていくため、生徒会による自主的な活動も多く取り入れていきたいと考えている。 また、生徒や保護者のアンケート結果において、「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いてきている。」の内容に対して9割が「あてはまる」との回答があった。特に、生徒の意識が高まっている。今後も、指導してきた内容と生徒の心身の変容をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図ってきたい。	・宇部中央高校に関しては、制服の着くずれも少なく、きちんと指導が行き届いており、基本的生活習慣の自立的確立について、取組の成果が出ていると思う。 ・各種委員会の中から、リーダーの育成をぜひ進めてほしい。	A
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会や各クラスで学校行事(明日葉祭・体育大会・クリスマス・生徒総会等)に積極的、主体的に参加する。	4:生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られた。 3:生徒会を中心に各行事ともクラスが行われた。 2:行事によっては活動が不十分であった。 1:クラスの活動が積極的ではなかった。	3 昨年度から、生徒会を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。来年度も生徒の主体性を高めていくために各種委員会活動の充実を図ってきたい。 学校行事への積極的な参加については生徒・保護者それぞれのアンケートでも約9割の良い評価を得ており、生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。		
進路指導	○進路実現のための実力養成	・生徒の希望進路実現に必要な実力養成のために、特に自習室・自習倶楽部の効果的な指導を図る。	4:自習倶楽部・自習室参加者が増加し、効果が認められた。 3:自習倶楽部・自習室利用が計画的に行われた。 2:自習倶楽部・自習室は利用したが、効果が不十分であった。 1:自習倶楽部・自習室の効果的な活用ができていなかった。	3 自習倶楽部においては、部員は昨年度19名、本年度は22名とわずくではあるが増加した。これまでの部員の学習に対する熱心な取組の姿勢や、進路実績に触れられ入部を希望する者が増加したものと考えられる。夏期休業中の学習時間400時間チャレンジでは6名、センター試験に向け実施した200時間チャレンジは全員目標を達成する等、学習時間確保はできた。自習倶楽部員が全体の牽引者となって進路実現を果たせるようしっかり総括し、次年度の運営につなげていきたい。 自習室の利用については、放課後、土曜日ともに例年並みの利用者数であった。1・2年次生の利用が少ないこと、土曜日の利用者が平均7名程度であることに対し、運営方法を工夫し参加者を増やしていきたい。	・自宅勉強するより、自習室で勉強する方が効率が良い生徒もいると思う。ただ、僅かな私語も気になるので、厳格な運営にすれば利用者は増えると思う。 ・アンケートの結果が肯定的だったことは喜ばしいことである。進路については、生徒自身がやる気にならなければ、どうにもならない。1年の時からの啓蒙も必要かと思う。 ・多様な進路への対応は大切であるが、学校自身がどちらの方向を向いているかははっきりさせる必要がある。	B
	○進路意識向上のための計画的指導の推進	・総合的な学習の時間を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4:アンケートで「役立った」との回答が概ね8割以上であった。 3:アンケートで「役立った」との回答が概ね6割以上であった。 2:アンケートで「役立った」との回答が概ね4割以上であった。 1:アンケートで「役立った」との回答が概ね4割未満であった。	4 生徒アンケートでは肯定的回答が88%、保護者アンケートでは肯定的回答が85%で、概ね高い評価を受けている。1年次の上級学校見学から始まり、学校等調査研究・発表、職業人講話・出張講義、3年次での面接練習等に至る、系統的・継続的な進路研究は、進路について考える機会として有効であったと思われる。今後、高まった進路意識をもとに、自己実現のために必要な学習への意欲向上と真の実力養成に効果的につなげることが課題である。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任、校内コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアに必要な生徒の早期発見・早期対応に努め相談活動の充実を図る。	4:心身のケアに必要な生徒への連携した機敏な対応と共に、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3:心身のケアに必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2:心身のケアに必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1:心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3 心身のケアが必要な生徒の早期発見のため各学期に「不安や悩みについてのアンケート」「いじめに関するアンケート」「教育相談アンケート」を実施した。また、その結果を集計分析し、必要に応じスクールカウンセラーを中心に適宜ケース会議を行った。そのため、ケアが必要な生徒への早期対応がスムーズに行われた。また、ケース会議の他にも必要に応じて各年次で対応を話し合うなど迅速に生徒を支援することができた。	・心身共に健康な高校生活を願っている。学習環境の整備について、さらに指導を継続してほしい。 ・生徒への注意喚起も含め、いじめの未然防止・早期発見を含め、問題を早期に発見し適切に対応できる体制を今後とも継続して行ってほしい。	A
	○学習環境の整備	・ゴミの減量化とともに清掃活動の徹底を図り、花壇づくりや校内美化に努め学習環境を整備する。	4:清掃活動その他の美化活動が計画通りに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3:清掃活動その他の美化活動がほぼ計画通りに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2:清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1:計画のみにとどまった。	3 今年度新たな取組として、清掃時間に生徒環境委員の巡視を実施し、清掃状況の把握と清掃活動の徹底を図った。花壇・外庭では環境委員をはじめ掃除担当の生徒が良く活動した。特に花壇については春秋2回の土作りから苗の植え付け、水やり、除草などを行い、とても美しい花を咲かせることで環境意識も高めることができた。清掃活動については決められたことはするが自分から率先して活動する生徒はまだ少ない。トイレや階段・廊下の隅など不十分なところが時々見られる。生徒の自主性を高め改善したい。		
業務改善	○学校の組織等		4:全体計画が作成され、学校運営の充実が大いに期待できる。 3:全体計画が作成され、学校運営の充実がかなり期待できる。 2:全体計画の作成が中途半端に終わり、学校運営の充実があまり期待できない。 1:全体計画が作成されなかった。	3 年度当初、各分掌から全教職員に課別業務一覧・年間業務一覧が示されることにより、計画的に業務を行うことができた。また、保護者やスクールカウンセラーと連携した「いじめ対策委員会」を新設し、「修学旅行委員会」と「アルバム委員会」を再編整備した。	・自分自身も、研究や授業は二の次となり、職務分掌への仕事にばかり時間が取られているのが現状である。先生方の気持ちはよく分かる。 ・毎年、この評価領域の評価が低いように思う。無理・無駄を省き、さらなる改善が必要かと思われる。大変ではあるが、頑張ってください。	B
	○機能的な校内組織の再編	・学校運営の全体計画を作成し、組織と業務を再編整備する。				
	○日常的な業務	・学習指導、生徒指導等に関する諸規定を整備する。	4:諸規定が大いに整備された。 3:諸規定がかなり整備された。 2:諸規定があまり整備されなかった。 1:諸規定に手がつけれなかった。	3 各分掌において諸規定の見直しを行っている。また、生徒の安全確保、非常時の連絡等のため携帯電話・スマートフォンの持込みを許可する新たな規定を設けた。		
○教育活動業務の効率化						
○勤務状況	・業務分担の均等化を通して勤務状況の改善を図る。	4:大いに改善が図られた。 3:かなり改善が図られた。 2:あまり改善が図られなかった。 1:全く改善が図られなかった。	2 分掌再編と業務の関連・統合を行って3年目となり、さらに業務分担の均衡化を図る必要がある。また、事前の資料配布等により諸会議や業務の効率化を図っているが、時間外勤務も日常的であり、さらなる勤務状況の改善を図りたい。			
○勤務時間の適正管理						

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【成果】	①各種コンクールへの応募やブックトークなどにより読書活動への支援がなされるとともに、図書館利用の活性化が図られている。学校行事やPTA関係の各種行事に加え、「いじめ対策委員会」や「修学旅行委員会」などへのPTA役員への参加により、保護者との連携が強化した。 ②年間を通して、週末課題などを定期的に行え、提出させることにより、基礎学力の定着が図られている。個人面談、各種アンケート等が計画的・組織的に実施され、生徒の状況把握や問題行動への未然防止も適切に行われている。また、あいさつ運動、身だしなみ指導等により基本的生活習慣の自立的確立も図られている。 ③「上級学校見学」、「総合的な学習の時間」、「面接練習」などを通じて進路研究が系統的・継続的に行われ、生徒が進路を考える上で大いに役立っている。 ④担任、年次主任、校内コーディネーター、養護教諭、SC等の連携が適切に行われ、教育相談体制の充実が図られている。
【課題】	①PTA総会の参加率を増加させるとともに、保護者のPTA活動や学校行事等への関心を高めていく必要がある。 ②授業参観や授業公開を積極的に行い、授業改善を推進していく必要がある。 ③早い時期から進路意識を高め、主体的に学習に取り組みさせていく必要がある。 ④生徒の環境意識をさらに高め、清掃活動の徹底を図る必要がある。 ⑤業務の効率化と業務分担の均衡化を、さらに進めていく必要がある。

7 次年度への改善策

①PTA役員との連携を軸に、保護者の学校への関心を高めていく。 ②教科や個人による授業参観や研究授業を年間計画に組み込み、授業研究を進めていく。 ③2年次からの「フレ」自習倶楽部の指導、週末課題、平素の課題などの工夫により、生徒の学習習慣の定着を図っていく。 ④生徒会役員や生徒環境委員による巡視、呼びかけを推進し、清掃状況の把握と清掃活動の徹底を図っていく。 ⑤各種業務において、さらにPDCAサイクルを回していく。
